5-3-1 第二次世界大戦の始まり

第二次大戦の始まりと日本



*武永家文書926「太平洋時局地図 キング附録 380万分の1」のうち,「南洋諸島明細地図(第18巻第1号附録,昭和16年)

解説

「富国強兵」「殖産興業」を掲げた明治新国家。急速な近代化の 達成、日清・日露の対外戦争の経験が、国家の膨張をもたらし、近 代日本は軍国主義への歩みを食い止める機会を失ってしまいます。

1939(昭和14)年に第二次世界大戦が始まりました。1940年の日独伊三国同盟、翌年の日ソ中立条約締結を経て、日本もその渦中に足を踏み入れることになります。

開戦当初のドイツによるヨーロッパ制覇は、欧州諸国のアジア植民地での支配権力の空白をうみだしました。一方で、1931(昭和6)年の満州事変以降、中国との対立は泥沼化し、日本は「拓殖」という名目での南方進出を企てます。そして、「大東亜共栄圏」のスローガンの下、アジアの団結と欧米支配からの解放を旗印に掲げました。こうした日本の動向は、アメリカとの全面戦争を不可避なものとしてしまいました。

1939年、東京で開催された「長官(道府県知事)会議」にあたり作成された資料にある「国民精神総動員」「国民貯蓄奨励」「軍事援助」「下請工業統制」などの文字には、戦時体制構築に向けた時代の雰囲気がにじみでています。



南洋諸島の案内絵葉書(時岡家文書8)

